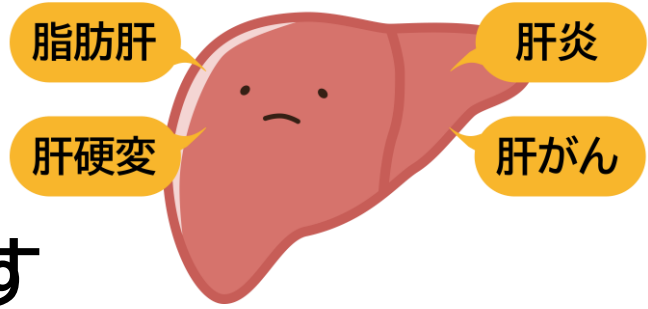


# 血液でわかる HepaSign<sup>®</sup>肝疾患リスク検査

## 血液検査で 肝疾患リスク

を知ることができます



### 肝疾患リスク検査って？

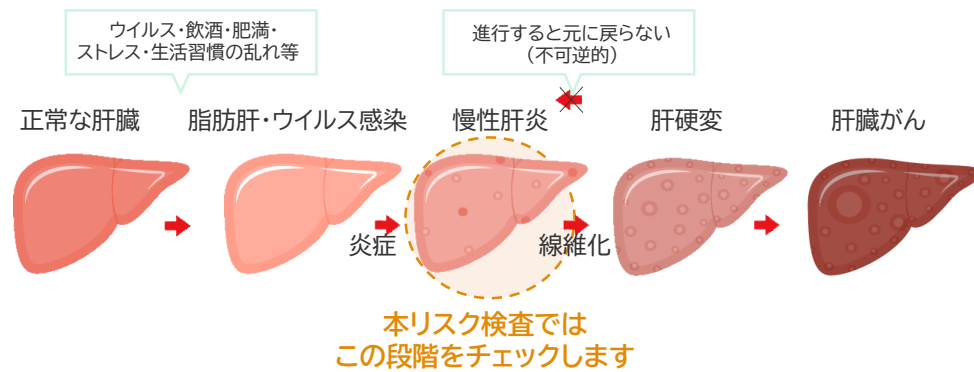
この検査は、**血液検査**で肝臓の炎症の度合いをチェックします。現在の肝疾患リスクを知り、早期に対策することで肝硬変や肝がんの予防に寄与できます。

肝臓は、再生力が強く、ダメージを受けても元に戻ろうとしますが、肝臓の環境が悪くなると、細胞が壊れたりすることで、炎症が起きてしまいます。炎症が長い時間続けば、肝臓は炎症による破壊と、その後の修復を繰り返すことで肝臓が固くなる**線維化**、**肝硬変**へとつながり、状態改善の難しい場合があります。肝硬変にまで進行すると年率で**数%に肝がん**が発生するといわれています。

※ 本検査は、受診者様の検査結果と類似した検査母集団における、統計的な肝疾患リスクを指標化したものです。がんの診断や助言を行う検査ではなく、医師の診断や助言を代替するものではありません。

### 肝臓の炎症って？

肝疾患の進行例(イメージ図)



肝臓は沈黙の臓器といわれるように、病気が進行するまで、自覚症状はありません。肝臓の病気は、肝炎ウイルスやお酒の飲み過ぎによる肝障害などが考えられますが、最近では、食生活や運動といった生活習慣の乱れや内臓肥満、ストレス等が原因で脂肪肝になる方が**増加**しております。

日本ではお酒が原因ではない脂肪肝の方、全国では**2000万人以上**の方がいると考えられています。一方で、肝臓は再生力の強い臓器であることから、早い段階で肝臓の異常を発見できると、生活習慣等の改善や治療により、肝機能の改善ができ、**肝硬変、肝がんの予防**が期待できます。

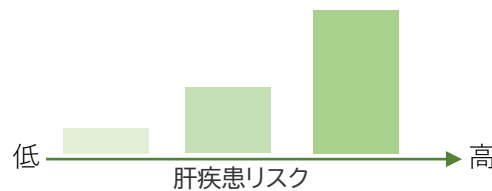


線維化、肝硬変へと進行する前の早い段階で発見し、生活改善等を行うことで、肝機能の改善が見込まれます。  
この検査は、**早期**での異常状態である**炎症**の段階から**肝疾患リスク**を知ることができます。

**沈黙の臓器だからこそ毎年継続して  
肝臓のリスク状態をチェック**しましょう

## 肝疾患リスクが分かると？

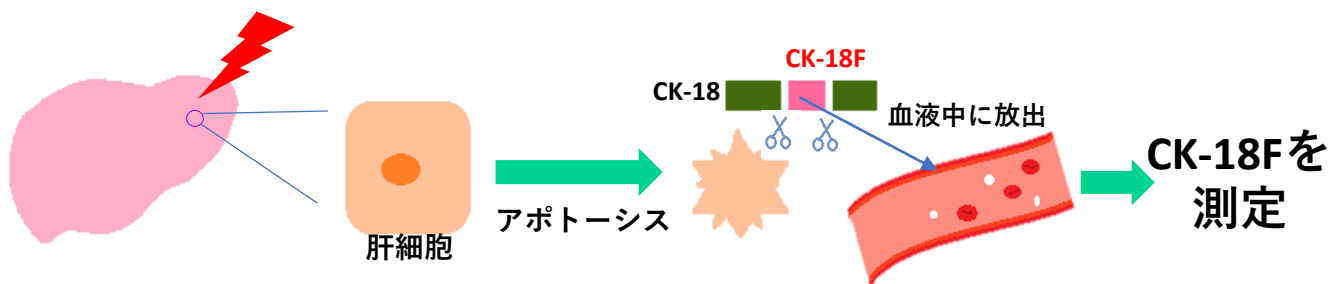
肝疾患リスク検査では、血液中のCK-18Fの測定値から肝疾患リスクを3段階で評価します。現在の肝疾患リスクを知ることで、生活習慣の改善や二次検査の受診など、自分に合った対策が分かります。早期に対策することで、早期発見や肝機能の改善につながります。



## 何を測っているの？

この検査では、血液に含まれるCK(サイトケラチン)-18の断片(CK-18F)を測定しています。CK-18は、肝臓のタンパク質の5%を占め、ダメージを受けた肝細胞が壊れると、CK-18が切断され、その断片が血液中に放出されることが知られています。

参考:Leers MP et al, J Pathol, 187, 567-572,1999



## 肝疾患リスク検査のポイント

- ✓ **肝臓の線維化・肝硬変になる前**の早期の段階でリスクチェック！
- ✓ 肝細胞が壊れるアポトーシスの過程で生じる物質を測定し、炎症の早期発見の可能性を高める
- ✓ 採血のみで短時間で検査が実施できる
- ✓ 食事等の制限はなし

## 1つでも当てはまる方にオススメ・毎年継続してチェックすることが大切です

- ✓ お酒をよく飲む方
- ✓ 高カロリーな食べ物をよく食べる方
- ✓ AST・ALT、血糖値、血圧、脂質が高い方
- ✓ 糖尿病の診断歴のある方
- ✓ 脂肪肝といわれたことがある
- ✓ 飲酒しないため、肝臓の心配はしていない方
- ✓ 肥満などメタボリックシンドロームの要因がある方
- ✓ 肝臓がんにつながるリスクを知りたい方



参考:国立国際医療研究センター肝炎情報センター